

第23回女性学公開講座

(2012年10月25日(木)実施)

—社会へ羽ばたくあなたたちへ 女性リーダーたちの応援メッセージ—

キャリアビジョンをまず描こう！！ VII

第23回女性学公開講座が、平成2012年10月25日(木)16:30-19:00まで、学園本部館3階大会議室にて開催された。参加者は学生44名を含む53名であった。

坂東眞理子所長による主催者挨拶に引き続き、美容研究家・メイクアップアーティストである小林照子氏による基調講演「心を輝かせる外見の力ー美しくキャリアを積む魔法ー」が行われた。講演の内容は小林氏ご自身のキャリア形成についてと美容研究家・メイクアップアーティストという仕事の魅力を柱とするものであった。

小林氏は18歳の時に演劇の世界で舞台メイクに携わって以来、半世紀以上の歳月を美容研究と実践に費やしてこられた。就職難の時代に株式会社コーサーに採用され、男性社会の中で「一般の人の人生という舞台で、一人ひとりの個性を輝かせる」という夢を抱き、頑張り続けた結果、勤続36年(うち6年間は取締役として)という職業キャリアに繋がった。56歳の時に「美・ファイン研究所」を起業、75歳で美容を中心に学べる学校も創設された。このように美容一筋の人生を歩んでこられた小林氏は、『人を美しくする魔法』というご著書の中で34の成功法則を示されている。講演の中でもいくつかご紹介があったが、後輩女性への応援メッセージがふんだんに込められており、勇気づけられるものであった。

基調講演後は、テーマ別グループ討論と報告が行われた。

「Aグループ：働き続けるために～仕事選び・配偶者選び」(リーダー：田中千恵子氏)の参加学生からは「好きなことを掘り下げ、働き続けることが、自分の人生を豊かにし家庭にも還元され、みんなを幸せにできるということが実感できた」、「Cグループ：就活に役立つキャリアビジョン」(リーダー：渡邊嘉子氏)の参加学生からは「28歳ごろまでに管理職に就く等プロとしての姿勢を持つことが大切だという、将来の人生設計に役立つ話を聞いた」、「Dグループ：キャリアを拓く：学生時代に必要な学び、修得する力」(リーダー：守屋朋子氏・水野葉子氏)の参加学生からは「専門の勉強によって視野を狭めることなく、広げていくことが新たな自分の発見にもつながるし、大切なことだと思った」、「Eグループ：企業が欲しがらる女性人材とは」(リーダー：内海房子氏・小林照子氏)の参加学生からは「会社とwin-winの関係を築き自己実現をしながら会社も自分も成長することを望む女性が良い」といった意見が出された。

最後に、まとめとして坂東所長から「女性にとって長い人生の中でどういう風に仕事を位置づけるのか、仕事はもちろん大事なことが、自分の人生をどういう風に生きていくのかということも合わせて真剣に考えるのは学生の時に一番必要なことではないか」というお話があり、改めてリーダーズ111への感謝が述べられ、閉会となった。(文責：伊藤純)

第1部 基調講演 「心を輝かせる外見の魅力～美しくキャリアを積む魔法」

小林照子(美容研究家・メイクアップアーティスト)

小林照子でございます。美容を研究して57年。20歳からやっていますので77歳でございます。私は魔法使いではないのですが、悪い魔法にかかっている人たちを、いい魔法に変えていくメイクアップアーティストという仕事をやっておりますので、そういう中から皆さんのキャ

リアをどんなふうに積み上げていくのか、どんな人生を送るのかというようなことの参考になるようなお話をさせていただこうと思います。

タイトルは「心を輝かせる外見の力」と出ていると思います。心を輝かせる、ここがとても大事です。それから「美しくキャリアを積む魔法」。外見の魅力というのは心の輝きに繋がっているというのが私の持論です。これは57年、人をきれいにしていく、人の皮膚に触れる、人のお顔に触れるという仕事を通して、自分自身のこともそうですが皮膚をいとおしむ、愛情を持って接する、そういうことがどんなに心を輝かせるかということを知っているのです、こういうタイトルにしました。

私の自己紹介をすると77年も生きていますのでそれだけで終わってしまいますので、後でこんなことをやっている人なんだと見ていただくために資料を配らせていただいております。そして、皆さんに見てもらいたいと思って「人を美しくする魔法」という印刷物を入れております。これは昨年私が書いた本のタイトルです。これは心と顔は繋がっているから、顔をなんとかすることによって心が全然違うものになってしまうということをいろいろな意味合いから書いている本なんです。その最後に「人を美しくする魔法34」という私の考え方をまとめています。

<人を美しくする魔法34から>

「夢に近づくチャンスは必ず巡ってくる」

その時を見過ごさないということです。一生懸命努力していると、夢を持っている人にはいつか必ず夢を実現するチャンスが来ます。チャンスの神様は前髪しかないという話がありますでしょうか？うっかりしていると、来たけどもどうしようかなと思っているうちに通り過ぎて、後ろでつかもうとしていると後ろはね…。前髪しかないということはつかめないということなんです。これは私がずっと自分の人生の中で感じてきたことです。

「いつでもフルネームを名乗る」

私、「小林照子でございます」と必ず言います。小林さんといわれて「はい」と返事することもあります、そうではなく「私は小林照子です」という自分自身という生き方。これを持っていて結婚しても、奥さんになっても、お母さんになっても、部長さんになっても自分自身として生きられるということです。

「やりたいことは顔に描けば引き寄せられる」

これなんです。メイクアップアーティストというのは、こういう人になりたいということに顔に描けばいいんです。

「人が見ていなくても、自分が見ている」

誰も見ていないからやっつけてしまおうというようなことはいけない。やはり自分を自分が見ている。これは私が皆さんにぜひお伝えしたいこと。

「与えること、助けることの積み重ねが応援し合える仲間をふやす」

I want だけではないということです。

「ピンチの時は自分の生き方を問い直すチャンス」

ピンチはいくらでもやってきます。そういうときは何を学べと言っているのか？といつも私は言います。

「好きなこと、楽しいことを掘り下げれば、そこに自分の夢が見つかる」

好きなことを連続してやっていて、それが自分のプロとしての仕事になったらうれしいですね。ですから好きなこと、楽しいことを掘り下げて行きましょう。

「夢を描き、実現し、達成感を味わう。そのくり返りで夢は大きくなっていく」

私はフロムハンドという学校をやっています。そこでは学生が入学した時から夢の実現に差をつけるということをやっています。小さい時どんなことがあったか、どんな経験をしたか、どんな時に楽しかったかということと話しているうちに「ああ、私はこうなりたいと思っていた」という夢が出てくる。それをどんどん出して夢を大きくしていく。そしてそれを実現する癖をつける。これを2年間の学生生活の中で必ずやらせます。そこでは私自身の夢も語るし、

それが実現する、夢が向こうからやってくるということを学生たちは見ている。ですから本当だ、夢は実現するんだということを学生たちは私の生き方を見ながら分かってくる。だから自分の夢を大きくも持とう、実現しようとする。そのために実現癖のひとつとしてヘアメイクでどんな人をどんなふうに作りたいかという絵コンテを描かせます。絵空事でいいので絵に描いてしまう。髪の毛がすごく立っているかもしれないし、すごく広がっているかもしれない。そんな絵空事を実現する。だって絵に描いたんじゃない、描いたことは必ず実現させてみてよ、というとなんとか工夫して実現してしまう。これは本当に不思議なことです、それがいつか癖になる。そして夢は大きく描けば実現するんだ、言い続ければいいのだという事がわかる。そして、就職という夢に向かって第一歩を踏み出す。これは私がやっている学校の仕組みですが、夢は必ず実現するんだということを学生時代から思っていた。これを皆さんにもぜひお願いしたいと思います。

「皮膚を通じて自分に愛情を注げば、潜在的な能力が開発される」

皮膚と脳は繋がっているんです。これは人間ができる仕組みの中に必ずある外胚葉というところから脳と爪と皮膚と髪と神経、これが同時にできるんです。ですから皮膚をかわいがり、喜ばせるということは脳を喜ばせることになる。楽しい、うれしい、生き生きするということが美しさを作っていくんです。ですから皮膚に愛情を注いでください。これはきれいに洗ってあげることから始まります。いろんなものをベタベタつけることではないと皆さんに気づいて欲しいと思います。

「子ども時代の印象的な体験の中に自分の「使命」が隠れている」

子ども時代にどんな経験をしたか。どんな稀有な経験があったか。これはあなたのどう生きるかという使命と繋がっていることが多いと思います。

＜小林照子のキャリア＞

私は舞台の人を作った人です。舞台にあがる人が乞食になったり、王様になったり、貴婦人になったりいろんな役を演じます。外国人になったりもするでしょ？そういうのを作る人になりたかった。それが18歳から20歳くらいまでの夢でした。そしてそれをずっと持ち続けていたら実現できたということです。もちろん舞台の人手掛けしましたが、一般の人にも人生という舞台があります。私がメイキャッパーになりたての頃は、普通でいい、目立たない方がいいという人が多かった。NYなんかに行つて個性を出してあげると、あなた魔法使いなんじゃないの？と言ってくれますが、日本人だと目立たない方がいいわ、みんなと同じがいいわという感じですごく不満でした。日本人はなんて画一的なんだろう。NYに行かないと私の個性は活かせない。そんな風に思ったのは舞台メイクを志してからなんです。そしているうちに私自身にキャリアが積み、メイクアップがうまくなった頃には人はもっと個性的であるべき、個性的に生きていいんだよ特に女性たちは画一的でなくていいとなつていったんです。男女雇用機会均等法というのが出来ていろんな職場に女性たちがいけることになった。そんな追い風があって、私は自分が目指して来たメイクアップの世界というのをうんと広げることができたんです。私は舞台上の人物を作るという勉強をしたから一人一人の個性をみつけ、それを生かしてあげることができるメイキャッパーになれたんです。この経験からも夢を持ち続け、それに向かって努力をしていると向こうからチャンスがやってくるということを、これは本当よと皆さんに伝えたいと思います。今はすべての人の人生をもっと良くするためにという思いで活動をしています。

私はコーセー化粧品という化粧品会社に36年勤務しました。これは当時メイクアップアーティストになろう、舞台のメイクができる人になろうと思った人が入るところが無かったので、どこがいいかと探したらコーセー化粧品、ここなら教えてくれるかなと思ったのが入社きっかけです。就職難の時代に本気で教えてもらい、私がプロになるために会社が支えてくれるかもしれないぐらいのとんでもない気持ちで会社に入りました。たくさんの人が落ちて行くのに私が採用されたことにすごく会社に感謝しました。あんなに素敵な人、あんなに頭の良さ

そんな人が落ちている。私がつらいからやめようなんて言うのはとんでもなく申し訳ないと思いました。ですから会社のためになるということはもちろん、自分のためになる、自分の夢が実現するwin-winの関係、私を採用して良かった、私もこの会社に入って良かったという関係を築いていこうと誓いました。これはたくさんの応募者がいる中で私を採用してくれたということに対する感謝の気持ちです。そこから私はコーセーという会社で本当に頑張りましたが、その頑張りは私の夢を捨てない頑張りであったんです。多くの人は言い訳をする材料に会社や上司という言葉を使う。でもこれは間違っていると思います。自分は相手にプラスを与えるwin-winの関係を築けなかったというだけです。化粧品会社というのは女の人がいっぱいいて女の人たちがぬくぬくやっているといたら大間違い。男性社会です。全体4000人いる中で女性の部長は2人ぐらいいかないというような会社です。そういう中で自分が女性のためとか、女性の立場でとか、美容を研究する人間としての立場として提案する。これは世の中のために、世の中が絶対必要だと思っているという確乎たる信念があるんですが、あればあるほど反対にあう。会社にいると反対の声の方が多いです。その反対をどうやって押しのけて行くの？がいいのか。そんなこともやったこともありますが、そうではないということをつかみました。反対する人ほどエネルギーがある、味方につければすごいエネルギーになってくれるということを経験することができたからです。そんなことをしながら私は会社の中で主任、課長、部長というものになり、結果は取締役という役員になって6年間やりました。私がこの会社で学ばせてもらったということは素晴らしいことです。人が本当にきれいになるということについて、例えば化粧品をつければいい、高いものがあるという風な勘違いがある。化粧品は絶対必要ですけど、それが最初にあるわけではない。自分の中にきれいになる力、本能がある。私たちの体の中、皮膚の中にはきれいになる才能がある。これを活用する。会社での33年間のキャリアの中で社会のためにこれをうんと普及しようと思いました。会社に辞任届を出し、それから何年も引きとめていただいたこともあって、辞めたのは、辞めますといってから10年も15年も先になるんですが、その間会社の中で私の夢を実現させてくれました。

私が将来やりたいと思っていることは人を育てることです。私はメイクアップアーティストになってほんとに良かったと思っています。ですからもっと私の考えるメイクアップアーティストをたくさん育て、世の中のため、化粧品や美容業界のため、医学のために貢献できる人材を作る、そう考えて私は社会のために生きると決め取締役を辞任し、56歳で起業しました。その時に美・ファイン研究所という名前にしました。外見の美、皮膚の美、それは心のファイン。心が輝くことを作ることができるということを研究する研究所。それからフロムハンド。手からそれを実現する、そういうプロを育てる学校を作りました。中学生や高校生が非常に美容に目覚め、髪の毛をいじりたい、染めたい、つけまつげを付けたいなどいろんなニーズが起っていますが、多くの学校では禁止するがためにせっかくの才能が埋もれてしまう。3年間何事もなかったように制服を着て、髪の毛をまとめて18歳になった時、突然暴れ出すというような美容というのはおかしい。むしろそんなに美容が好きなら好きなことに熱中しながら基本を学び高等学校を卒業したらいいんじゃないのということで高等学校まで作りました。これは私が75の時。そんな学校を東京の南青山と京都に作るということで私は今、大忙しです。そういう風に私が少女時代に描いた夢を本当に完全に実現している。それは頑張って実現しようと思わないで、ある程度の時間頑張っていたら向こうからチャンスがやってきて、チャンスをパッと前髪でつかむということをしていたら私の人生ってこんなに素敵になったと、今は考えています。

<ハッピーメイク>

私はハッピーメイクというのをやっています。それを皆さんにお伝えしたいと思います。メイクアップというと大変誤解があるのでハッピーメイクという言葉を作りました。なぜ誤解があるかという、メイクといったら化粧品は何を使うの？という風に描くの？何を塗ったらいいの？という風になりがちなんです。ですからメイクアップアーティストというに相当厚化粧をす

る人間だと思われたりする。でもそうじゃないということで、私はハッピーメイクといいます。これは人生が変わるんです。その人が本当に自分という魅力を見つけたときに自信が出る。自信が出た顔というのは誰にでもわかる。そうするといいい方向にどんどん向かっていくんです。

最初のスライドです。この方は19歳。一番手前のものは自分のメイクです。彼女は舞台の上でスターになりたいと思っています。隣は同じ方ですが舞台上上がるのなら自分の個性をこんな風に出したらいいかという私の提案。そして自分の個性をさらに生かすようにしたのがこちら。メイクアップの力で全然違う印象がいくらでも作れます。だから何になりたいの？ということが大切です。(次) この方もそうです。この方は仕事をしなければいけない。離婚して子どもを育てなければいけないという立場にあります。昔、モデルをやったことがあるからモデルをやりたい。でも、このままではちょっと無理。これは若く見せる美容です。若く見える皮膚感、肌の色、まゆ毛の形、頬の色と唇が同じくらいのトーン。そんな作り方をすると非常に顔が若やいだやわらかい感じになる。こちらと同じ方ですが50代くらいの顔です。50歳からの本というのがたくさんあります。そうすると今30代で中途半端だから50代の本に採用されるようにメイクを覚えましょうよというのがこれです。それからこれはカラオケのビデオなどで、振られた、やるせない、せつないみたいな歌の時にぴったりだと思いませんか？ちょっと妖艶で華やかな感じですよ。(次) それから年齢が高い人でも自分というものをどういう風に生かしていいかわからなくて、ちょっとちぐはぐな表現をしている。でもこんな風にするとその人の個性が出てくる。その人の人間性やキャリアがうんと出てくると思いませんか？この右と左、どちらの顔がいい人生になると思いませんか？(次) この方はとてもおしゃれで素敵なおられるようなファッションだし表現をしている。でもちょっとプロにかかるようにバランスが違って来る。ヘアのバランスをちょっと上の方に持っていく。それから眉の形が違ってしまう。眉が下がっていると全部が下がったような顔になってしまう。そうではなくて何となくシャキンとした感じ。そうすると同じ洋服でも背筋がピンと伸びるんです。この方が美しいでしょ。(次) この人はとても優しいイメージの方。その個性をどう生かすか。優しい人に表現すればいいじゃないですか。(次) なんかに強いイメージがありますね。華やかな人に表現すればいいじゃないですか。(次) なんだかちょっとあいまいですね。でもとても知的な雰囲気を持っている。(次) この方は50代ですが、自分のシミばかり気にして、シミはどうやったら消えるかということばかり考えている。けれどこんなに美しい人になれるんです。シミなんて今、ファンデーションがいいからテクニクさえ使えば簡単に消えます。そしてシミをカバーして歩けば日焼けも防げる。化粧の効果っていうのは見た目だけじゃないんです。あなたはこんなに素敵なのと見せてあげると本人がびっくりしてしまうんです。こういうことが私のやっている仕事のひとつです。

(次) この方は88歳。若いときNYと一緒に行ってずいぶんいろんなことを教えていただきました。その方の足腰が弱っていると聞きまして、私がメイクをしに行き、たくさんの人が集まって誕生パーティーをしました。そうしたら車椅子でしか動けなかった人が、その数ヶ月後にタクシーに乗ってきたんです。それほど外見に自信がつくと心が輝いていくんです。(次) この方はとても印象深い方です。最初の写真が59歳。ご本人と私だけが知りませんでしたが、もう数カ月しか生きられないということで私のところに来た時のものです。そして私が眉毛を描いてあげましたというのが二番目。そして次が67歳の時です。こんなに素敵になって人生をほんとに謳歌してくれました。69歳で亡くなった時、親戚中がすごく明るくて「小林さんのおかげです。こんなに長生きできたのは」というからとても不思議に思っていました。実はそういうことだった。10年も延命出来たと親戚中が思えるくらい、自分に自信ができることで、心にも張りができるとういうことが起こってくるんです。

では最後。私のプロフィールを見ていただくとわかりますが、いろいろなことをやっていますが、美容やメイクアップ以外の事はやっていません。その一例として、つい10日程前にやった事例です。特にこの方をここでご紹介するのは、私が昭和女子大学に行くのでこれを皆さんにお見せしてもいいですか、と言ったら、ぜひ皆さんに見せてあげてくださいということに

なり、普段は公開しないのですが、皆さんにご覧いただくことになりました。この方はニュースキャスターをやっていた方。その方が外交官夫人になりました。ですからアナウンサーとしての自分、外交官夫人としての自分、そしてプライベートな自分。3つの世界を作りたいわけです。そこでどんな風な印象を作るかということで相談がありました。アナウンサーとしてはこういう感じ。いかがですか素敵ですよ。このようにアナウンサーとしてのオフィシャルな場面での自分。そして外交官夫人としてフォーマルな席にでるような場面のときの装い。そしてプライベートな場面。こんな風に私自身というのを表現したらどうでしょうかというのをやりました。人はこんな風にいろんな場面を持っている。そのいろいろな場面で自分らしく装う。自分が素敵である、これなら自信が持てる、そういうことが私のやっている外見の力です。でも外見の力だけを使うのは良くありません。私は若い時にモデルさんやタレントさんをするという時代がずっとありました。そこでは言葉も分からない、日本語がちゃんと使えないような人でもメイクアップをすると貴婦人のようにになってしまうんです。写真に知性は写らないからいいとカメラマンが言ったりして。そうすると美しく美しい女性ができる。内面の知性はどれくらいあるんだろうと想像できるような人を作るとその人にインタビューしたいという話がでできます。あのモデルさんを取り上げたいんだけど紹介してくれる？と。ところが雑誌の編集長が「小林さん辞めてよ、インタビューしたって何の話も帰ってこないよ」ということが起こる。外見だけを作るのはやめなさいよ、それはおかしいよといわれることが多くて、私もそうよねと思う。化粧品のポスターなんかは15、6歳の子を使います。ハーフの子や、外国人を使ったりすると14、5歳です。そういう人を22、3歳くらいに見えるようにしてしまうわけです。そうすると内面がどんなに頑張っているにしてもこのギャップというのは急には埋まらないです。だから私が一番うれしいと思うのはやはり内面を作っている人。内面が出来る人の外見を作るというのが一番うれしいことです。内面があるのに外見がそれに伴っていない、損をしている、もったいない。そういう方に私が外見の力をつけてあげることで変えていくと本当に内外ともに素晴らしくなります。

<ニコニコ>

私は昨夜、日本で一番の太鼓の名人という方の訪問を受けました。私に出会ってから6年。すごく純粋な男性の方です。純粋な方だから私の考えを取り入れていたらどんどん良くなったと信じて疑わない人が61歳になり、内外共に認められる名人という称号をもらい、文部大臣賞ももらって、仕事であるそばの工場作りなども出来てすごくうれしいと報告がてら、これからの人生をどうしたら良いかヒントをくださいというんです。これまでどんなヒントをあげたかしらといたら、6年前に言葉づかいをきれいにしなさいと言われたと。というのは太鼓打ちだから「なんだてめー」みたいなことを平気で言う。それが格好良いと思っているらしい。そんなところを私は「言葉って言葉ってね、魂になってブーメランのように自分を傷つけるようにもどってくるんだってよ」とこれは人から聞いた言葉だけど聞きかじりで言ってあげた。素直な人だからああそうなんだ言葉は物質化して刃物のようになって自分に向けて刺してくるんだ、そう思ってそれを正した。その他いろいろ、ああいわれた、こういわれたと言っていました。奥さんと仲良くしなさいということも言われた。家族を愛しなさい、社員を愛しなさいということも言われた。6年間ですごく良くなって頂点まで来た。どうしたらいいかと聞かれたので、私とっさにニコニコといったんです。「もっとこうしなさい、努力しなさいって言われるかと覚悟していたらニコニコ。なんか拍子抜けしちゃったな。でも、ニコニコだけは自分の人生の中には無かったです」といっていました。その時、私がやったビフォーアフターというのをチラッと見せたんです。大手の会社の編集長の頑張っているというお顔つきや洋服をみせてから、次の画面を見せたら「これ同じ人ですか？ニコニコしていますね」「そう、ポーズでニコニコしているんじゃないの、本人がうれしいからニコニコしているのよ。だからうれしいという自分を作っていけばいいのよ」って。その写真が何よりの説得力です。これからはニコニコでいきますと納得して帰って行かれました。そして今朝メールが来ました。自分

がニコニコして家に着いたら妻がびっくりしました。これから社員や家族にやります。僕はニコニコしながら最高の人生を送りますという内容でした。これは本当に一生懸命頑張って、そして頂点まで極めたという人の生き方だという風に思うんです。その人は市長になれと言われていたと言っていましたから、いずれ日本一の太鼓打ちが知事になるかも知れないと思って楽しみにしているんです。

そのように人は夢を持って生きる、夢は持ち続けると必ず実現する。持ち続けなきゃダメ。持ち続けられない理由はたくさん出てくる。そのたくさんの理由を理由にしてはだめ。なぜならば夫が…、なぜならば子どもが…、全部言い訳にしています。でもそうじゃない。私がフルネームで自分を名乗るといふこと。私が私を見ている。私が夢を持っている。いろいろ工夫をする必要がある、努力をする必要がある。だけど、必ず実現します。ぜひこれから皆さん方にいい人生を作っていっていただきたいと思います。

第2部 テーマ別グループ討論

予定されていた5グループのうち、Bグループを除く4グループのみ実施。討論終了後、各グループのリーダーと代表学生による報告がなされた。

Aグループ：働き続けるために～仕事選び・配偶者選び

リーダー：田中千恵子（株式会社ル・シェール代表取締役社長）

【田中】配偶者選びというところに皆さん興味を持たれたようです。これは大変に難しいテーマでありまして、選ばれるという立場でもありますし、選んだその人がずっとそのまま同じ性格でいるかどうかはまた別な話なので、幸せになりたいのであれば合わせるというのも非常に大事なのではないかというお話をさせていただきました。

【学生】最近、自分が結婚した後、そのままずっと専業主婦というよりも、自分の好きなことを掘り下げて自分自身が輝けるためにはどうすればいいかと考えていました。そのためにはどういう仕事に就くのがいいか、幸せな結婚生活をするためにはどうすればいいかという方法論のことばかり考え、ネガティブに悩んでしまっていました。しかし、好きなことをして働き続けることが、自分の人生を豊かにし、それを自分の家庭に還元して自分の幸せな姿を分け与えることで、みんなを幸せにできるのではということをとっても感じました。皆、将来の結婚像がイメージできなかつたり、自分の両親の姿を見ていて、どんな夫婦になればいいかと悩んでいた方が多いと分かりました。結婚はどのような人を選ぶかという選ぶ側としての考えよりは、自分じゃなければだめなんだと選んでもらう側としてアプローチを受けるぐらい魅力的と思われるように、そしてうまく相手に合わせてあげられるように、また、女性にしかできないような生き方の中に配偶者も関係してくるのだと感じました。相手がどうだとか、職場がどうだとか、仕事がどうだとかいうよりは、どんな場所でも楽しくニコニコと幸せでいられる自分自身を作り上げていくということが大切だと感じました。

Cグループ：就活に役立つキャリアビジョン

リーダー：渡邊嘉子（ヒューマン・コミュニケーション研究所所長/GCDF-ジャパン国際キャリアカウンセラー）

【渡邊】Cグループではカウンセリングに興味をお持ちの男性が一人いらして、男性の視点も加えていろいろな話をすることができました。最初にライフプランを念頭に置いた上で、自分の人生をどうデザインしていくかという事の大切さをお話ししました。その後それぞれの方の将来の方向について聞いていきました。ホテル業界に関心のある方とか、介護福祉関係に興味を持って就職活動に参加しようとしている方がいましたので、具体的な対策について話をさせていただきました。

【学生】 就職に役立つ面接の内容や姿勢などを学ぶことが出来ました。そして女性の方の意見だけでなく男性の方の意見も聞けたのでとても役に立ちました。人生設計なども28歳ごろまでに管理職に就く等というプロとしての姿勢を持っていると良いということを知りました。私も3年生で就職活動とかが始まるのでとてもいい勉強になったと思いました。面接の姿勢なども声を大きくして話すということをこれから意識していきたいと思っています。職種や業界、職場等を一番に考えていかなければいけないということ、また、面接の対応としては先輩訪問に行くなどして将来に少しずつ役立てて行くことが大切だと分かりました。そして心と体のケアを行うことで身体を大切に仕事をしていくことがなにより大切だとわかったのだとてもよかったです。

D グループ：キャリアを拓く：学生時代に必要な学び、修得する力

リーダー：守屋朋子（金沢工業大学大学院客員教授）

水野葉子（有限会社リーファース代表取締役社長）

【守屋】 皆さん就職がとても気になるようで、そのために今何をすればいいかというお話が多かったです。人生60年、皆さんは働かざるを得ない時代になっていますから45年のレンジで自分の人生を設計して欲しいということをお願いしました。そのために何かやれと言われてたらそれをチャンスだと思ってやって欲しいということで代表者に報告をしていただきます。

【水野】 私は娘が2年連続して就活をしたのでその時の経験談をお話させていただきました。それから学科にこだわらず、自分がワクワクすること、やりたいことを徹底してやっていくと、それは絶対にひとつの引き出しとなってプラスとなるということをお話させていただきました。

【学生】 就職をするにあたってどんな力が必要なのかとか、学生時代に学んだことをどうやって生かしていくかということを中心に話しました。学生時代に学んだことは社会で必ず役立てることができるということ、どの学問にもバックボーンがあるのでそれを自分の基礎にして社会に役立てるということがとても大切だと知りました。みなさん自分の専攻をどうやって仕事につないでいくかを悩んでいる人が多かったのですが、実際にはいろんなことにチャレンジして自分の幅を広げることが今の時期には必要で、自分の幅を広げ、好きなことをみつけてそれを自分のアピールポイントにすることが面接などに繋がると分かりました。専門を活かそうとして視野を狭めてしまうのではなく、広げていくことが新たな自分の発見にもつながるし、大切なことだと思いました。

E グループ：企業が欲しがる女性人材とは

リーダー：内海房子（独立行政法人国立女性教育会館理事長）

小林照子（美容研究家/メイクアップアーティスト）

【内海】 2年生が12人、3年生が3人、4年生が1人、社会人が1人ということで多様な皆さんのいろんな意見が出て大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

【学生】 私自身参考になった意見としては会社とwin-winの関係を築き自己実現をしながら、会社も自分も成長することを望む女性という意見がとても良いと思いました。今日のグループ討論では4年生で就活をされている先輩の声や社会人の方の声と講師の方の具体的なアドバイス聞き、将来のビジョンを考える上で参考になりました。